

平成25年6月18日

浜田市議会議長 濱松三男様

議員名 芦谷英夫



## 調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため研修等を行ったので、その結果を報告します。

### 記

1. 期 間 平成25年6月2日(日) 13:00~16:30
2. 研修内容 平成の大遷宮出雲大社展シンポジウム  
「出雲大社と神々のものがたり～風土記説話の謎をとく～」
3. 研修先 大社文化プレイスうらら館
4. 調査経費 合 計 12,880円  
JR往復 5,200円  
タクシー往復 5,280円  
出雲大社展 1,000円  
図書購入 1,400円  
(浜田駅⇒出雲市駅(往復JR利用)⇒出雲大社⇒出雲市駅  
(往復タクシー使用)⇒浜田駅)
5. 調査研究活動の概要 別紙のとおり

## 平成の大遷宮出雲大社展シンポジウム 出雲大社と神々のものがたり

◎期 日 平成25年6月2日（日）

◎場 所 大社文化プレイスうらら館

◎概 要 演題「風土記説話の謎をとく」お茶の水女子大学 萩原千鶴 教授  
対談「佐野史郎が語る 古代出雲の魅力」俳優佐野史郎  
パネルディスカッション「出雲大社と神々のものがたり」コーディネーター 関 和彦、パネリスト 萩原千鶴 兼岡理恵 川島芙美子

○713年（和銅6年）元明天皇は、全国に風土記編さんの命令を発し、各国の地名の由来、産物、土地の沃瘠、山川原野の名号の所由、伝旧聞や異事などを史籍に載して報告するよう命を下した。

○風土記として出雲、播磨、肥前、豊後、常陸など五国分が現存している。おり、出雲の国風土記が全体としてよくまとめられており、出雲は国造が編纂し他国のものは国司が編纂したと考えられている。

○713年古事記、720年日本書紀、733年出雲国風土記が編纂され、日本書紀は日本の正史とされているが、古事記と日本書紀は神代を人の時代より遠い過去のもとし、天皇の時代につながり、出雲国風土記は国譲りもあつてか、中央政府、天皇とは距離を置きあるいは対比して記述している。

○風土記は現存するものは五国分のみであるが、石見国風土記も編纂されていたと考えられ、石見国司として赴任していた者、柿本人麻呂などが関係していたとも考えられ、石見国庁跡、万葉集や柿本人麻呂にまつわることなど、石見地方の古代史研究の一層の進展が待たれる。

○同時代の古事記や日本書紀に由来する石見神楽の演目として、鹿島、<sup>やそがみ</sup>八十神、<sup>やまとたけるのみこと</sup>日本武尊、岩戸、<sup>はちちまた</sup>恵比須、大蛇、八衢などがあり、石見神楽の振興、観光振興の観点からも、これらのすそ野を広げる意味からも、関係資料の収集整理、情報発信が必要である。

—以上—